

## 自らの学びに明確な目的意識をもつ言語活動を通して、 活用できる言葉の力を育てる国語科の学習

### I 国語科研究の方向性

#### 1 主題設定の理由

現行学習指導要領では、知識の理解の質を更に高め、確かな学力を育成することが求められています。具体的には「主体的・対話的で深い学び」の実現という視点から授業改善の取組を進め、学習の質を一層高めていくことが重要となります。学習指導にあたっては、〔学びに向かう力，人間性等〕を原動力とし，〔知識及び技能〕と〔思考力，判断力，表現力等〕が相互に関連し合う学習過程の構築が必要です。

前研究では「自らの言葉を探究する言語活動を通して、言葉の力を高める国語科の学習」を目指して進めた研究の結果、「全国学力・学習状況調査 国語」（H29～R1）の全問題で全国正答率を上回るなど、児童の言葉の力が高まっている一方、相手や目的等に応じて言葉の力を発揮することには課題が見られます。同調査（R1）の「国語 1 三 目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く」などに課題が表れています（本校：37.0%，全国：28.9%）。

全体研究で目指す「探究する子供」は、先述した学習過程が子供たちの主体性によって構築された学びを通して育成されるものと考えます。そのような前提に立ち、国語科では「相手や目的等が明確な言語活動において、自らの思いや考え、意図をもち、『知識及び技能』と『思考力，判断力，表現力等』を相互に関連させながら伝え合い，（自分なりの）答えにたどり着き，分かったことを次の言語活動や他教科・他領域の学習，日常生活で活用する子供」と考えます。

そこで、研究主題を「自らの学びに明確な目的意識をもつ言語活動を通して、活用できる言葉の力を育てる国語科の学習」と設定しました。「自らの学びに明確な目的意識をもつ」とは、言語活動及び学習内容に児童自身が「追究したい」という意識をもつことです。「活用できる言葉の力」には、「学習の基盤となる」国語の資質・能力を，单元内だけではなく次の言語活動や日常生活，他教科・他領域で活用できる力として育みたいという願いを込めています。

#### 2 目指す児童の姿とその具体

**既習の内容を基に学習の見通しをもち、言葉を問い直したり思いや考えを広げたりしながら言語活動に取り組むことで、活用できる言葉の力を獲得しようとする児童**

「既習の内容等を基に学習の見通しをもち」とは、言語活動における①目的や意図，②相手や場面，③活用可能な既習事項，④身に付けたい力について見通しをもつことです。「言葉を問い直したり思いや考えを広げたりしながら言語活動に取り組む」とは、理解や表現の適切さについて言葉を吟味したり、「これも伝えたい」「この場合はどうかな」など，試行錯誤しながら粘り強く言語活動に取り組むことです。「活用できる言葉の力を獲得しようとする」とは，各单元での学びを結び付けて新しい気付きを得たり，次の单元で生かそうとしたりすることです。

## II 研究内容の具体

### 1 自らの学びに明確な目的意識をもつ言語活動の設定と遂行

国語科における探究型の学びを推進していくためには、言語活動とその遂行に向かう学習過程が、児童の必要感や既習の学びと結び付くことが大切です。そのために全学年を見通した教材分析、言語活動の設定の仕方を考えるとともに、言語活動との出会いの場面で見通しをもつ「単元を貫く大きな問い」と、「問題解決の足掛かりとなる小さな問い」の組合せを考えたりすることも重要です。ここでは、言語活動を自らの学びに明確な目的意識をもつ活動にするための手立てについて明らかにしました。

#### ○自らの学びに明確な目的意識をもたせる教育課程の在り方

- ・ 学びの履歴と系統を踏まえた教材及び単元の分析、年間を概観できるページの作成

学年	2下	3上	3下	4上	4下	6下
教材	『きつつき』	『めだか』	『川をさかのぼる知恵』	『花を見つける手がかり』	『ウミガメの命をつなぐ』	『ほくの世界、君の世界』
単元名 (ここが大事)	作り方をせつめいしよう せつめいのじゅんじよに気をつけよう(じゅんじよをしめす書き方)	だんらくの要点をつかもう	図や写真と文章を、むすびつけて読もう	けっかとかつろんのつながりをとらよう (けっかとかつろん/事実と意見)	大事な言葉や文につけて要約しよう	「心の世界」について考え、自分の考えを伝え合おう (要旨を読み取る)
主な学習		要点	図と文のむすびつけ	すしみを採る	要約	要旨
	説明の順序		筆者の説明の工夫(説明の順序、図表の効果)			

#### ○言語活動の設定の工夫と出会いの工夫

- ・ リアリティのある相手や目的、場面などを設定し、児童にふさわしい「文脈」の中で「活用可能な既習事項」「身に付けたい力」について見通しをもつ出会いを工夫する

#### ○大小様々な問いと共に進む単元構成の工夫と問いを生む工夫

- ・ 児童自身の問いや違和感を大切にしたり、意図的にうまくいかない場面を位置付けたりすることで、切実感を生み出す

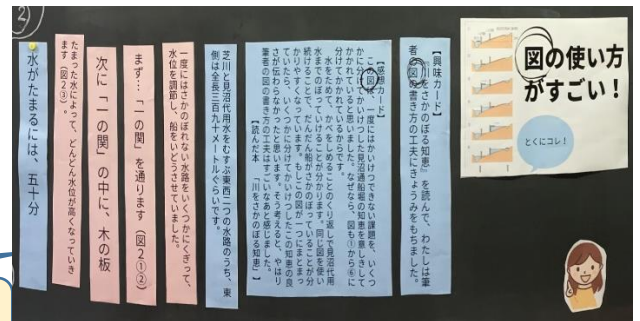
### 2 問い直す過程の質を高める手立ての工夫

問い直す過程の質を高めるためには、教師が明確な意図をもち「本当にこうかな」などと児童が言葉を問い直す場面を位置付けることが大切です。そこで、確実に自分の考えをもたせた上で思いや考えを広げたり、試行錯誤したりしながら問い直す過程の質を高める手立てを具体化しました。

#### ○問い直しや試行錯誤を支える手立ての具体化

- ・ 確実な考えの形成に資する発問をする(選択型「どちらかな」「どれかな」)
- ・ 思考を焦点化できる思考ツールや、俯瞰できる既習教材を提示・活用する(比較させたり、分類させたりする)
- ・ 試行錯誤を可視化し、児童の問い直しを支える工夫

【既習教材を用いて、自分の興味や感想に沿った要約のために必要な言葉や文を考える】



- ・ 自分の興味や感想に沿って書き出しになっているかどうか
- ・ 要約に合わないカードはないか(カードの色を変える)等の思考過程や内言、作業の様子を可視化することで、児童の問い直しを支える

### 3 活用できる言葉の力を育む評価

「活用できる言葉の力」を育むためには、児童の学びを見取りフィードバックすることが大切です。また、「活用できる」という視点においては、児童が主体的に学習に取り組んで身に付けた能力を、児童自身が実感することも大切です。そのために、ここでは評価規準の具体化や、児童の振り返り方についての工夫について明らかにしました。

#### ○評価規準と指導の手立ての具体化

- ・ 評価規準を「言語活動を遂行している姿」として具体化し、児童に対する手立てを想定する

#### ○ポートフォリオと振り返り

- ・ 問い、探究の仕方、結論を振り返る(学びの調整能力を育て、粘り強い取組を生む)
- ・ ノートや1枚ポートフォリオ等の活用
- ・ 単元内、単元間、日常生活や他教科・他領域の学びへの展開方法

#### <3年次研究の重点>

- ・ 活用できる言葉の力を育む指導～既習と未習をつなぐ学び、指導事項の活用
- ・ 試行錯誤を可視化する教材の工夫

### Ⅲ 研究実践

#### 4年生実践 「大事な言葉や文に気をつけて要約しよう（『ウミガメの命をつなぐ』）」

実践のテーマ：選んだ本の興味をもったところを紹介する活動を通して、  
目的に応じた要約の仕方や違いに気付く学習

#### 1 研究授業のねらい

本単元は、自分の興味をもったことについて大事な言葉や文を書き出し、要約するという言葉の力の育成をねらいとしました。文章の内容全体を縮約するのではなく、それぞれの興味に沿って要約することを目指しました。そのため、要約のために取り上げる大事な言葉や文、また完成した要約文が、一人一人の興味によって異なります。

児童が、目的に応じた要約の仕方や違いに気付くことができるよう、要約の部分を隠した文章を提示し、興味をもったところやその感想に沿う文の在り方について思考する活動を設定しました。また、説明文の内容に加え、説明の仕方にも注目させ、興味をもったところとして取り上げることができるようにしながら、並行読書での要約に生かして学習を進めました。

#### 2 単元の指導計画

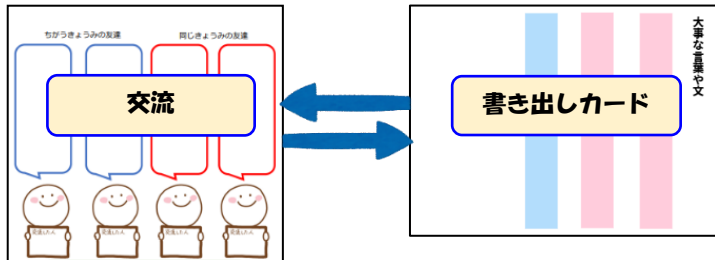
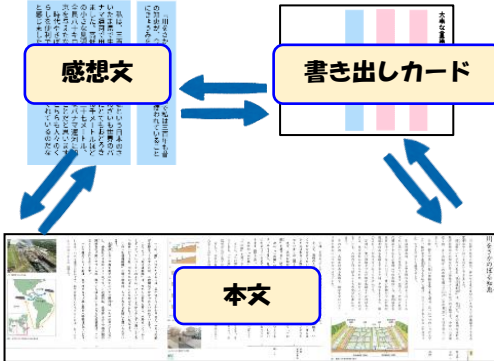
時間	学習内容・学習活動	児童の姿・評価規準及び方法
① ②	<p><b>つかむ</b></p> <p>◇「ウミガメの命をつなぐ」を読む。</p> <p>◇要約を取り入れた本の紹介を読み、単元の見通しをもつ。 ・要約の意味やよさについて理解する。 ・本の紹介をするという見通しや、そのために必要な学習を捉える。</p> <p>生き物のひみつについての本を友達に紹介するために要約について学び、文章を書こう。</p>	<p>目的に応じた要約の違いについて理解している。</p> <p>付箋・ノート 【思判表③】「ウミガメの命をつなぐ」を読んで興味をもったところを挙げている。 【知技①】興味をもったところや感想を支える要約について理解している。</p>
③ ④ ⑤ ⑥	<p><b>たしかめる</b>（以後、◆＝並行読書）</p> <p>文章全体の内容や筆者の説明の工夫をとらえ興味をもったところについて感想を書こう。</p> <p>◇年表に整理しながら、文章全体の内容を捉える。 ④ 年代と照らし合わせながら、内容を整理する。 ◆紹介したい本を決める。 ⑤ 整理した表を見て、筆者の説明の工夫を考える。 ・説明の順序、図や写真に着目して、その意味を考える。 ◆選んだ本の説明の仕方についても考える。 ⑥ 興味をもったところを明らかにし、感想を書く。 ◆選んだ本の興味をもったところを明らかにし、感想を書く。</p>	<p>・説明文全体の内容や、筆者の工夫を捉えている。 ・文章を読んで、興味をもったところを挙げたり、感想を書いたりしている。</p> <p>ワークシート・ロイロノート 【知・技①】説明文について、事例や情報、筆者の工夫を捉えている。 【思判表③】「ウミガメの命をつなぐ」や、自分が紹介する本を読んで、興味をもったところを挙げたり感想をもったりしている。</p>
⑦ 本時 ⑧ ⑨	<p><b>考える</b></p> <p>興味に沿って大事な言葉や文を書き出し要約文や、それを取り入れた紹介文を書こう。</p> <p>◇興味や感想に沿って、大事な言葉や文を書き出す。 ・文章に線を引いたり、カードに書き出したりして整理する。 ・書き出した言葉や文を友達と交流して確かめる。 ⑧ 接続語について理解し、要約する文章を書く。 ⑨ 要約文を読み合う。 ・「はじめ(興味をもったところ)・中(要約)・終わり(感想)」の構成で文章を組み立てる。 ◆紹介する本の興味や感想に沿って、大事な言葉や文を書き出す。</p>	<p>・要約のために必要な言葉や文を考え書き出し、友達の見解を取り入れたり接続する言葉を活用したりして要約している。</p> <p>観察・ワークシート・ロイロノート 【態度】興味に沿って言葉や文を書き出したり、友達との交流を通して問い直したりしながら要約しようとしている。 【思判表②】目的を意識し、文章を端的にまとめている。 【知・技②】興味や感想に沿って、必要な言葉や文を書き出している。</p>
⑩ ⑪	<p><b>深める・広げる</b></p> <p>選んだ本について、要約を取り入れた紹介文を完成させよう。</p> <p>◆選んだ本を紹介する内容について、要約を取り入れて書く。 ・これまでの学習を生かし、興味や感想に沿った要約になっているか確かめたり、書き直したりする。 ◆要約を取り入れた本の紹介文を読み合う。 ・単元全体を振り返る。</p>	<p>・興味や感想に沿って要約を取り入れた文を書いたり、友達の本を読んで感想をもったりしている。</p> <p>ロイロノート・ノート 【思判表①②】目的を意識し、文章構成を考えながら端的にまとめている。 【思判表③】友達の本を読み、考えをもっている。</p>

### 3 本時の学習

#### (1) 本時の目標

自分の興味や感想に沿った文中の大事な言葉や文を、考えることができる。

#### (2) 本時の展開(11時間扱いの7時間目)

学習内容と主な学習活動・予想される児童の反応	研究との関わり・留意点
<p>1 前時までの復習をし、本時の見通しをもつ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>『ウミガメの命をつなぐ』や自分の選んだ本について、書いた興味をもったところや感想を書いたね。</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>要約のために、自分の興味や感想に沿った大事な言葉や文を見付けよう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>でも興味や感想に沿った大事な言葉って何だろう。</li> <li>どうやって見付けるのかな。</li> </ul> <p>2 「川をさかのぼる知恵」を例に、興味や感想に沿う大事な言葉や文について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>そんな風にして大事な言葉や文を見付けるのだね。</li> <li>前回書いた興味や感想に戻りながら、要約に必要な言葉や文を書き出していけば良いのか。</li> <li>「ウミガメの命をつなぐ」や自分の選んだ本についても同じようにできそうだ。</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>自分の興味や感想によって、大事な言葉や文は変わる。</p> </div> <p>3 「ウミガメの命をつなぐ」について、自分の興味や感想に沿う言葉や文を書き出す。</p> <p>4 言葉や文を書き出す思考過程を共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>私もウミガメの産卵に興味をもったから、⑥～⑨段落を中心に探して…。</li> </ul> <p>5 「ウミガメの命をつなぐ」について、再度自分の興味や関心に沿う言葉や文を考え、書き出す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>さっき書き出した言葉は、感想に合っているかな。</li> </ul> <p>6 書き出した言葉や文について、友達と交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>私はここの文も書き出したよ。</li> <li>この感想だったら、この言葉も書き出したら良いんじゃない？</li> </ul> <div style="text-align: center;">  </div> <p>7 振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>3人の友達からアドバイスももらって、書き出す言葉や文をこんな風に直したよ。</li> <li>明日はこの言葉や文を使って要約文にしていこう。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>興味をもったことや感想の内容に合わせて大事な言葉や文を書き出し、友達と交流して見直すことができた。</p> </div>	<p style="text-align: center;"><b>研究との関わり・留意点</b></p> <div style="text-align: center;">  </div> <p>◇<b>試行錯誤を可視化し支える教材</b> <span style="background-color: #800080; color: white; padding: 2px;">研究視点2</span></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>単元の導入で提示した紹介文の興味をもったところや感想と、要約に際し言葉や文を書き出す思考の内言や作業を可視化することで、児童の試行錯誤を支える。</li> <li>感想と照らしながら考えさせる。</li> <li>言葉や文を書き出す過程で、児童の思考を共有し、確かめる。</li> </ul> <p>◇<b>評価規準と指導の手立ての具体化</b> <span style="background-color: #800080; color: white; padding: 2px;">研究視点3</span></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>〔態度〕ワークシート・観察 興味に沿って要約するために必要な言葉や文を書き出しそうとしている。</p> <p>〔知識〕ワークシート 興味や感想に沿って、要約に必要な言葉や文を書き出している。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>誰がどの内容に興味をもっているか分かるようにしておく。</li> <li>要約に必要な言葉や文を書き出した試行錯誤について振り返る。</li> </ul>
<p>◇<b>授業の見所・本時で願っている児童の姿</b></p> <p>興味や感想に沿って、要約に必要な言葉や文を書き出す教師の試行錯誤を見ることを通して、カードに書き出す言葉や文を捉えたり、感想と照らして修正したりする姿。</p>	

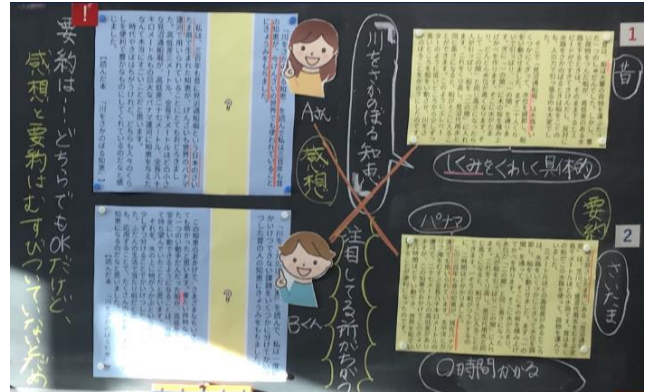
## 4 授業の実際

### 活用できる言葉の力を育む指導～既習と未習をつなぐ学び、指導事項の活用

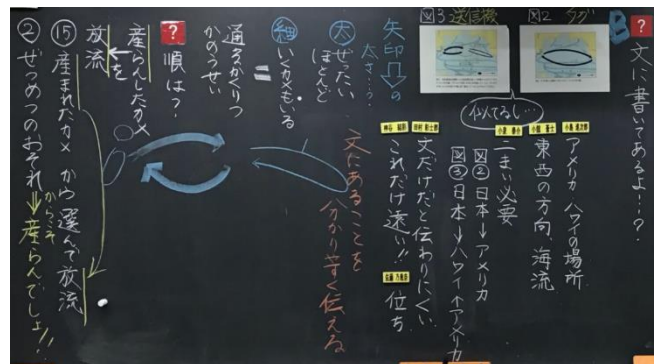
活用できる言葉の力を育てるためには、これまでの学びを土台とし、そこに新しい知識・技能や見方・考え方を積み上げていくことが大切です。また、培った力を活用することで、より汎用的な力として定着させることができると考えました。

まず、本単元の導入では、3年次に既習の『川をさかのぼる知恵』の教材を用い、興味をもったところ及びその感想と、要約文との対応について考えさせました。すると児童は、「Aさんの興味や感想は、日本の知恵が世界で使われていることについて述べているから、2番の要約文が合う」といったように、興味や感想と、要約の結び付きについて捉えていました。既習教材を使用することで、本単元の指導の目的に素早く焦点化することができました。

また、説明文の内容を「たしかめる」段階では、4年次既習『花を見つける手がかり』で取り上げた筆者の視点に立たせる発問をしました。具体的には、「文中で説明していることを表す図は必要か」「説明の順序（産卵の研究→放流の研究）に意味はあるか」を問い掛けました。そうすることによって児童は、図は文の内容をより読者に分かりやすく伝えるための筆者の工夫であること、絶滅の恐れがあるウミガメだからこそ、まず産卵させてから放流の研究をするという説明の順に意味があること等、既習の学びを想起し内容だけにとどまらない幅広い視点で説明文を捉えました。



【それぞれの興味・感想と要約の結び付きを捉えた第1時の板書】



【図や説明の順序の意味について思考した第5時の板書】



【児童が要約を取り入れ紹介文を書いた本】

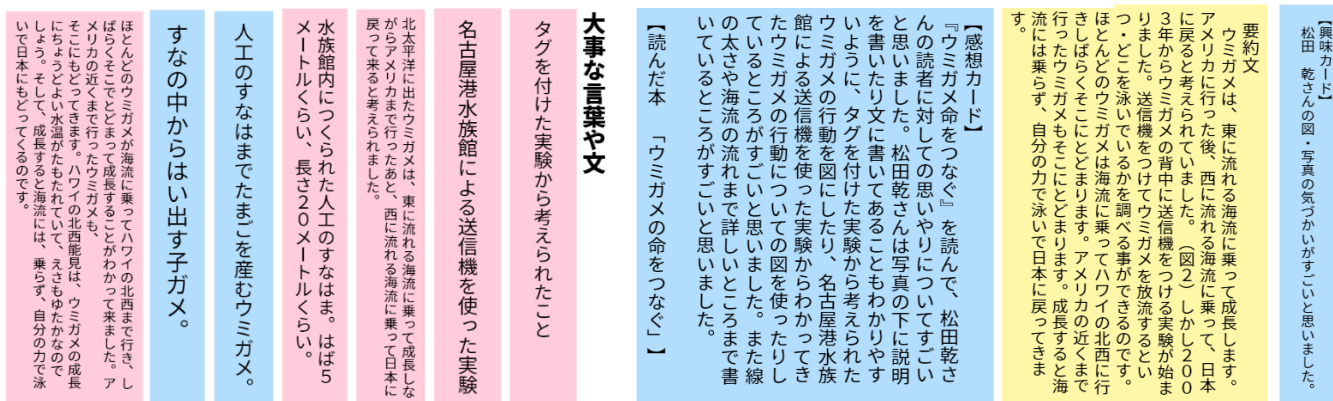
指導事項を活用し、より汎用的な言葉の力を定着させるためには、数種類の本から児童が選んだ本について興味をもったところを、要約を取り入れ紹介するという言語活動を設定しました。児童は『ウミガメの命をつなぐ』で身に付けた力を生かして取り組むことができました。互いが知らない情報だからこそ、端的に分かりやすく伝えたいという要約そのものの効果や活用場面に、より迫る形で意欲的に言語活動を遂行することができました。

### 試行錯誤を可視化する教材の工夫

単元第7時では、興味や感想に沿って大事な言葉や文を書き出す思考の過程や内言を、教師が可視化（外言化）しました。どのように大事な言葉や文を書き出したのか、その思考や内言、作業の過程を可視化することで、児童はどのような視点でいかにして大事な言葉や文を見付け、要約するべきかを捉えることができると考えたためです。とりわけ、教科書に示される「筆者の説明の仕方（地図や写真・図）」に興味をもった児童の要約は、完成イメージやその際の思考を理解するのが難しいと考え、本文、興味や感想、大事な言葉や文を書き出すシートが一覧できる教材を工夫した上で、取り上げて試行錯誤を可視化しました。

筆者の写真や図の使い方に興味をもったA児は最初、「人工のすなはまでたまごを産むウミガメ」や「すなの中からはい出す子ガメ」も要約に必要と考え、シートに書き出していました。しかし、感想カードを見返し、自分は放流の実験についてまとめられた図について特に興味をもったことに気づき、2枚の書き出した付箋を削除（カードの色を変更）して要約文をまとめていきました。

【A児の大事な言葉や文を書き出したシート(左)と、興味や感想、完成した要約を取り入れた文(右)】



単元の振り返りでは、「『自分にとって』大事な言葉を見分けることが大切だと分かった」「ウミガメのときは他の人のおかげでできたけど、選んだ本では自分で要約を書けた」等、要約の意味や自身の変化、成長を実感する記述が見られました。

## IV 3年次研究の成果と課題

3年次研究では、「活用できる言葉の力を育む指導～既習と未習をつなぐ学び、指導事項の活用」「試行錯誤を可視化する教材の工夫」を重点として研究を進めました。

### 1 研究の成果

- 既習の教材や指導事項を活用することで、単元の目的に効率的に焦点化したり、広い視点で読む力を定着させたりしながら、汎用的な力の獲得を目指すことができました。
- 身に付けた力を他の場面で生かす言語活動を設定し試行錯誤を可視化したことで、要約は興味をもった部分によって異なる場合があることや、その対象が説明の内容に限定されないこと等、その目的や意味を幅広く理解しながら言葉の力の定着に迫ることができました。
- 端末を用いて大事な言葉や文の書き出しや要約文の作成を行ったことで、児童が効率的に作業や試行錯誤をすることができました。

### 2 今後の課題

- 試行錯誤の可視化・外言化のより有効な方法について検討し、明らかにしていく必要があります。
- 大事な言葉や文、要約文を推敲して改善する活動の充実を図っていく必要があります。

## V 参考文献

- 小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編 文部科学省 東洋館出版社 平成30年2月
- 実践国語研究 No. 369 「『主体的に学習に取り組む態度』の指導と評価」 明治図書 令和3年11月
- 実践国語研究 No. 370 「『探究的な学び』と国語授業」 明治図書 令和3年12月
- 子どもと創る国語の授業 No. 71 全国国語授業研究会 東洋館出版社 令和3年3月
- 子どもと創る国語の授業 No. 72 全国国語授業研究会 東洋館出版社 令和3年6月
- 子どもと創る国語の授業 No. 73 全国国語授業研究会 東洋館出版社 令和3年8月
- 「小学校国語 説明文の授業技術大全」 二瓶弘行・青木伸生 明治図書出版 令和元年8月